

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 淳厚苑
日付	平成18年12月15日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年 居宅支援事業所介護支援専門員経験6年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 『一日1回、いい笑顔が見られたらいいね』利用者がその時々楽しさを笑顔で表してくれることを1つだけ目標にして出勤するよう一人ひとりの職員に促している。「ここで生活出来ることは幸せ」「1人では淋しいけれど、ここに居れば安心ですなえ」「職員の皆さんも、利用者皆やさしい」と口々に話してくれる。利用者一人ひとりが自分流に暮らしている。「文芸春秋を読み、毎日の事を日誌に書き残し、それを肌身離さず持ち歩いて宝物にしている男性」「新聞をいつも身近に置いて読んだり、眺めたりしている男性」「ここに居ると、美味しいご飯を食べさせてくれ、おやつもある。お金も要らんのじゃ。何もせんでええのやと安心している女性」「正月まで帰らんでええ、ここに居てもいいと云ってくれたと喜んで(？)不安なのか(？)よく喋りまくっている女性」「皆何もできません。私がこのゴミ箱をどれだけ作ったかと広告紙を折っている人」「皆の話をニコニコ聞いている人たち、それぞれが自分のペースで過ごしている利用者とも無理強いすることなく自然に接している職員を見ていると、極く普通の家庭でその人らしく生活している光景が漂う。 一方、利用者と職員が一緒になって長い時間をかけて制作する大作がある。職員がデザインした干支の上に、広告紙や白紙で手作りのストローを1本1本並べて作る作品は、皆の宝物である。グループホーム設立以来、「申」「酉」「戌」の創作品が廊下に並んでいる。唯今、来年の「亥」が制作途上であり、皆の気持が1つになって作り上げる共同生活は見事である。 個人の尊重と共同の楽しさをうまく調和させ、生活をうまく営んでいるリビングルームの中に、利用者と職員の笑顔と笑顔が漂っていた。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 利用者が今の状態が満足しているように感じたが、重度化していても常に何かの刺激を受けながら生活していく工夫をずっと続けていって欲しい。 地域密着型サービス事業に本格的に取り組んでいく(時代に入って、地域との交流に努められているが、地域ケア会議や運営推進協議会を活用して、認知症ケアの先駆者として地域の人々のためにリーダーシップをとって活動して欲しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「真心で家族の味わい」を理念として、一日1回は笑顔を職員の合言葉としている。これを聞かれた1階医院の入院患者さんが「職員の一団、きょうの私、私の活動力、それはふとした笑顔、毎日毎日が違う、その笑顔の中に生きがいがある」と書いた色紙をよく見える場所に掲げ、その言葉がこのグループホームの目指すところであり、管理者・職員のケアの質とサービスの向上である。そして利用者も伴う理念である。これを職員一人ひとりが考え、飾らない自然な行動となっている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 2階建ての医院を増築し、その2階部分がグループホームとなっている。リビングルームと居室が縦に並び、それを広い一直線の廊下で結んでいる。単調な建物のレイアウトであるが、狭いリビングルームと廊下をうまく活用して生活を楽しんでいる。リビングルームでリハビリ体操をそたり、器具を使った足関節の運動リハビリをする。又、広い廊下がバタゴルフ場となり、本物のバタとゴルフボールを使って車椅子の人も手作りのゴルフにゴルフボールを打ち込むゴルフを楽しんでいる。又、輪投げや色々な遊びをして運動をしているので、空間の狭さを感じさせない。これは利用者と職員が、この空間に大作を飾る画廊にしたり、運動場にして楽しい雰囲気を作り出している。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「入居時には部屋から出られない状態の人が、ポータブルトイレに移動して排泄出来るようになった。そして今は部屋から出ることが出来るようになった」「職員と会話が出来ようになったが、部屋での生活に介助が必要となった」等、利用者がグループホームに入居してから状態が良くなったこと、一部は良くなったが、一方で悪くなっていく状態が克明に記録されていて、一人ひとりを長い目で見て、継続的に人間全体の状態を見ようとするポジティブな考えに立ったケアをしている。利用者の良かったことが多くなる方向を見つめる努力をしていて、認知症を良く理解している管理者や職員の工夫と努力に安心感が見えた。又家族にも、遠方の人にも来訪を促して、利用者の最大の理解者であって欲しいと、家族との協調、協力体制をとりながら、グループホームのパートナーとしても関係を構築しようとしている。素晴らしいグループホームである。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 先代の院長が、地域の高齢者の診療をした経験から医療のみで高齢者を支えていくのは難しいと、町内の医師と協力して福祉・介護の重要性を思い特養ホームを立ち上げた。その直後、交通事故で世界されたが、その意志を奥様が引き継がれ福祉施設の拡充をして、町内の高齢者を支援し、旧町内の福祉を支えている。 地域との連帯感を十分に感じる。保育園や幼稚園の園児が訪れ、利用者の笑顔があふれる写真を見たり、卒園祝いに利用者や職員の手作りプレゼントも用意していた。町内の行事に参加したり、レクリエーションを活発化している記録や写真、町内の人からの寄贈された作品などを見ると地域との交流、このリビングルームの狭さも十分にカバーして、利用者の笑顔を呼び起こしている原動力を感じた。		